



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.283

2018.10.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【藤鼠(ふじねずみ)】灰色がかった青紫色のこと。

藤色には青藤、白藤、紅藤、京藤など多くの派生色があるが、藤鼠もそのひとつ。江戸時代の流行色のひとつで、明治時代にはこの色を好んだとされる上方歌舞伎役者の屋号から別名「新駒色」と呼ばれた。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

平成30年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」[公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業]

財団からのお知らせ..... 4

平成31・32年度「美術館出前(オーダーメイド)型研修」開催地募集のお知らせ / 地域創造レターについての特別アンケート回答のお願い / 平成30年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」実施中 / 平成30年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

神戸市 神戸アートビレッジセンター「KAVCアートジャック2018」

●「公共ホール音楽活性化事業」「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」

おんかつ、アウトリーチフォーラム事業がスタート

平成30年度
公共ホール音楽活
性化事業

平成29・30年度
公共ホール音楽活
性化アウトリーチ
フォーラム事業



地域創造では公立ホールやアーティストと共にクラシック音楽と地域が交流するさまざまな事業を展開しています。その中の柱が「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」と、都道府県との共催により2カ年事業として実施している「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」です。いずれも秋から各地で本格的な事業が始まります。今号のレターでは、これら2つの取り組みについて、現場の様様をご紹介します。

●平成30年度おんかつ本格スタート ～神石高原町

今年度のおんかつでは、平成30・31年度登録アーティスト8組が9月から来年2月まで全国11地域で事業を展開します(発展継続モデル事業※を含む)。その皮切りとなったのが、広島県神石高原町のさんわ総合センターとオカリナ奏者の山本奈央さんによる取り組みです。

神石高原町は、標高約500メートルの中国山地中腹にある人口約9,200人の町です。おんかつが実施された9月27日から29日は、稲刈りやブドウの収穫と農繁期の真っ只中でした。やまなみ文化ホール(400席)を有するさんわ総合センターは町直営による研修施設で、神楽や文化団体の発表会など町民の文化拠点になってい

ます。2004年に4町村が合併した町であることから、今回は旧町村4地域(保育園、高齢者施設)に向いたアウトリーチが行われました。

オカリナ奏者として初の登録アーティストであり、自宅には200本のオカリナがある山本さんは、素朴なものから幅広い音域のでる進化系オカリナまでたくさんの楽器を持参。高齢者施設では、お年寄りが奏でる「オーシャンドラム」(箱に米を入れて波の音を出す音具)と一緒に演奏するなど、自然体のトークと演奏で心を通わせていました。

最大の見所は、センターを運営するまちづくり推進課の森田陽加里さん、同課係長の後藤輝明さんが思いを込めたコンサート。神石高原の美しい星を感じてほしいという森田さんの思いを受け止めた山本さんは、ステージに置かれたたくさんの星球が輝く暗闇の中で演奏。また、後藤さんは溪谷の画像を準備するなど、自然とオカリナの響きが交歓するコンサートとなりました。

後藤さんは、「町の人口減少が進み、高齢化率も45%と課題が山積です。そんな中で、アクティビティ先で皆さんの笑顔にふれ、上質な音楽を届ける大切さを純粋に感じました」と振り返っていました。

写真左上：山本奈央さんによるアウトリーチ(神石高原町立いずみ保育所)

右上：最終日(9月29日)に行われた「神石高原に響くオカリナのしらべ」コンサートでは、ステージに町の風景と夜空を演出(ピアノは菊田光紀さん)

左下：トリオ・リラによるアウトリーチ(始良市立永原小学校)

右下：トリオ・リラによるアウトリーチ(始良市立山田小学校)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 佐藤
Tel. 03-5573-4185

●公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ
芸術環境部 山居
Tel. 03-5573-4069

●コーディネーターに演出家、振付家を起用 ～アウトリーチフォーラム鹿児島セッション

都道府県と共催するアウトリーチフォーラム事業では、1年目にアウトリーチ事業を広く知ってもらうためのシンポジウムを開催します。2年目は、オーディションで選ばれた新進フォーラムアーティストがコーディネーターと共に都道府県に滞在してアウトリーチプログラムを開発するアウトリーチ研修に始まり、実際にアーティストが市町村に出向いてアウトリーチとコンサートを行います。平成29・30年度は公益財団法人鹿児島県文化振興財団(宝山ホール)との共催により事業が実施されていますが、2年目にあたる今年は、6月にアウトリーチ研修が行われ、9月から県内4市町(始良市、伊佐市、長島町、知名町)での公演事業が始まりました。

今回の最大の特徴は、アウトリーチ研修のコーディネーターとして現代演劇の演出家(田上豊)とコンテンポラリーダンスの振付家(セレノグラフィカ)が起用されたことです。チーフコーディネーターを務めた津村卓・地域創造プロデューサーは、「音楽を聴かせることはもちろんですが、演出家や振付家と一緒に考えることで“新たな子どもたちへの向き合い方”を発見してもらえればと思います。地域創造はクラシック音楽だけでなく、現代演劇、ダンス、邦楽、美術の事業を行っており、今回のコーディネーターはいずれも登録アーティストとして子どもや市民と向き合ってきた豊富な経験もっています。こうしたアーティスト同士のコラボレーションにも期待しました」と、狙いについて話していました。

今回のフォーラムアーティストは鹿児島出身の女性ピアニトリオ「トリオ・リラ」と、サクソフォンカルテット「Glück Saxophone Quartet」の2組。6月24日から6日間にわたって行われたアウトリーチ研修は、コーディネーターが演奏家からしっかりとやりたいことを聞き取るところからスタート。トリオ・リラを担当した田上さんは、演奏家が子どもたちに聴いてほしいという曲「ピアノ三重奏曲第1番」(メンデルスゾーン作曲)に向けて、言葉の力や構成によって子どもたちの

集中力を段階的に高めていくアプローチをサポート。

また、身体の専門家であるセレノグラフィカは、重たい楽器を抱えて演奏するサクソフォン奏者の身体が傾いていることを指摘。毎朝1時間のストレッチと垂直に立つ訓練、歩く訓練を行いました。「真っ直ぐ立てるようになってから音がきれいに出るようになった」と、その思わぬ効果に演奏家も驚いていました。

市町村公演事業の皮切りになったのが、9月5日～8日まで始良市で行われたトリオ・リラによる「さつまおじょのトリオコンサート」です。始良市は桜島を臨む鹿児島湾の中央に位置し、北に霧島連山が眺望できる自然豊かな市で、空港や高速道路へのアクセスもよく、ベッドタウンとして人口も増加しています(人口約7万6千人)。今回の主催団体である始良市文化会館・加音ホール(公益財団法人始良市文化振興公社)は、大ホール817席、小ホール300席を有する市民の音楽活動の拠点で、1996年の開館に合わせて立ち上げた付属の加音オーケストラや、2011年に誕生した市民合唱団が活動しています。

トリオ・リラは市内4つの小学校と養護学校で計6回のアクティビティを実施しましたが、留学経験のあるゴウ芽里沙さんの流暢な英語での自己紹介がディープな鹿児島弁の曲目紹介に変わると子どもたちはビックリ。楽器紹介からメインの演奏まで、集中力を切らすことなく音楽を感じていました。また、最終日のコンサートでは、アクティビティの様子を投影しながら、“鹿児島”と“音楽”という2つの共通の故郷をもつ3人らしいトークを交え、どこか懐かしい音楽を披露すると、涙を流す聴衆の姿も見受けられました。担当の梶公大さんは、「アクティビティでは、演奏や楽器体験を通して、児童の興味津々な顔や鑑賞の意欲が高まる様子が印象的でした。コンサートでも、始良市民を中心に質の高い演奏をお届けできました。打ち合わせを密に行うことでひとつの事業が形づくられていくのを感じることができ、大きな収穫になりました」と振り返っていました。

●平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体(主会場/アーティスト/日程)

- 広島県神石高原町(さんわ総合センター/やまなみ文化ホール/山本奈央/9月27日～29日)
- 北海道帯広市(帯広市民文化ホール/アーバンサクソフォンカルテット/11月30日～12月2日)
- 静岡県菊川市(菊川文化会館アエル/中野翔太、田中拓也/12月6日～8日)
- 佐賀県佐賀市(東与賀文化ホール/アーバンサクソフォンカルテット/2019年1月17日～19日)
- 大阪府四條畷市(四條畷市市民総合センター 市民ホール/泉真由×松田弦/1月24日～26日)
- 長野県佐久市(佐久市佐久平交流センターホール/岡田奏/1月25日～27日)
- 岡山県美作市(英田公民館/糸賀修平/2月1日～3日)
- 福岡県久留米市(久留米市城島総合文化センターインガットホール/糸賀修平、中野翔太/2月7日～9日)
- 愛知県刈谷市(刈谷市総合文化センター/泉真由×松田弦/2月12日～14日)
- ※発展継続モデル事業
- 東京都文京区(文京シビックホール/泉真由×松田弦、酒井有彩/11月26日～30日)
- 熊本県菊陽町(菊陽町図書館ホール/泉真由×松田弦/1月15日～19日)

●平成30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体(主会場/アーティスト/日程)

- 鹿児島県始良市(始良市文化会館/トリオ・リラ/9月5日～8日)
- 鹿児島県伊佐市(伊佐市文化会館/トリオ・リラ/10月3日～6日)
- 鹿児島県長島町(長島町文化ホール/Glück Saxophone Quartet/12月12日～15日)
- 鹿児島県知名町(おきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな/Glück Saxophone Quartet/2019年1月9日～12日)

財団からのお知らせ

●平成31・32年度「美術館出前(オーダーメイド)型研修」開催地募集のお知らせ

地域創造では「実践的な公立美術館運営能力の向上」ならびに「公立美術館の相互交流」を図るための出前型の研修事業を行っています。

この研修事業では、地域のニーズに沿ったカリキュラム編成を行い、地域創造の負担で

講師を申請館へ派遣します。また、ゼミ形式による参加者の相互交流の促進も目的としています。

本研修事業を平成31・32年度に地域創造と一緒にを行う公立美術館を募集します。皆さまのご応募をお待ちしております。

募集締切：2019年1月31日(木) 必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館が、②のいずれかの形態で参加することを要件とします。

①地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館(美術作品等の公開および保管を行う施設。博物館を含む。)

- 地方公共団体
- 指定管理者(地方自治法第244条の2第3項)

②参加する美術館の形態

- 都道府県単位の複数の公立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

[開催地]申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

[参加者数]双方向型の研修を実施するため、20人以内

[開催回数・開催時間等]平成31年度、32年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の決定する日程において、複数回行います。

(例：有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)研修項目を参考に、公立美術館の要望に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

◎研修項目例

- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 公立美術館のミッション策定のあり方
- 地域連携・地域に親まれる企画のあり方
- 効果的なプロモーション(広報)
- マーケティング・創客
- 美術館と観光・インバウンド
- 公立美術館同士または民間施設との連携
- 公立美術館と他の行政分野との連携
- 美術館経営のPDCAサイクル
- 公立美術館の評価システムの具体例
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 公立美術館の組織や人を動かす手法
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

●申請美術館としての業務

参加者への働きかけ、参加者名簿の作成、会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)

●地域創造レターについての特別アンケートにご協力ください

今後の地域創造レターの編集方針や、当財団の情報発信の充実方策を検討するにあたり、このたび特別アンケートを実施いたします。ご回答は、レターに同封しましたアンケート用紙に直接記入しメールまたはファックスでお送りください。当財団ウェブサイトの「ニュース」(下記URL

参照)から直接ご回答いただくこともできます。ぜひ積極的なご協力をお願い申し上げます。

募集締切：11月30日(金) 必着

[問い合わせ] 芸術環境部 三田・高澤
Tel. 03-5573-4066 letter@jafra.or.jp
<http://www.jafra.or.jp/j/news>

●美術館出前(オーダーメイド)型研修

◎申請方法

当財団ホームページの「様式箱」→「ステージラボ・アートミュージアムラボ」→「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

◎問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4143

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●平成30年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」実施中

複数の公共ホールが共同して演劇作品の上演とワークショップなど地域交流プログラムを行う「公共ホール演劇ネットワーク事業」。平成30年度は9月から10月にかけて、すばるホール(富田林市)、能代市文化会館、上田市交流文化芸術センター、高知市文化プラザかるぼーと、平成31年2月に豊岡市民プラザ、茅ヶ崎市民文化会館、浄るりシアター(能勢町)の7つの公共ホールで『桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰〜立ち切れ線香の章〜』が上演されます。

この作品は、小説家・田中啓文さんの古典落語をキーワードに繰り広げられる人気ミステリー小説を基に、南河内万歳一座座長・内藤裕敬さんが脚本・演出を手掛け、上方落語家・桂九雀さんが演じる演劇と落語を融合させたユニークな舞台で、演劇ファン、落語ファンのどちらも楽しめる演劇公演と落語公演の2部構成となっています。

地域交流プログラムは、それぞれの地域の特色に合わせて、内藤さんの演劇ワークショップ、

九雀さんの落語ワークショップの2種類のプログラムを行います。一部会場では落語ワークショップ参加者が公演本番に出演し、落語を披露するという貴重な体験ができます。

今後も2月に3カ所での公演や地域交流プログラムが控えていますので、興味のある方はぜひ観劇やワークショップへ参加をしていただきたいと思えます。



内藤裕敬さんによる能代市内の高校演劇部員、市民劇団員たちを対象にしたワークショップを実施(能代市文化会館)

●平成30年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

平成29年度から事業をリニューアルし、①地域交流プログラムを実施するAプログラム、②市民参加作品を創作するBプログラム、③アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業を実施する「ダン活」。今年度は、15団体(Aプログラム11団体、Bプログラム3団体、Cプログラム1団体)が参加し、その内9団体が平成29年度から継続して実施しています。6月にはAプログラムの2団体(上田市交流文化芸術センター、ながす未来館)の事業が終了し、9月からBプログラムの神戸アートビレッジセンターでの事業を実施しています。これから各地での事業が順次スタートします。

Aプログラムの上田市では今年度から公立化された長野大学でのアウトリーチを実施し、ホールと大学との連携・交流に向けて良い関係性が生まれました。また、長洲町での中学校アウトリーチは、1年生を対象に実施し、特別支援学級の子どもも一緒に参加することでクラス内での良いコミュニケーションの場となりました。Aプログラムでは、児童養護施設、不登校児童、障がい者、保育士、外国人、企業などを対象としたアウトリーチが予定されています。

Bプログラムの神戸アートビレッジセンターでは、雑多ながら魅力的で人情味あふれるまち、新

開地のアートセンターとして、まちの人々を巻き込みながら一緒に踊りたいという思いから新開地商店街をパレードし、そのままホールで公演するという企画をしています。9月には公募ワークショップと、公演に向けた参加者とのクリエイションを実施しました。Bプログラムでは、映像を活かした市民参加作品を創作する企画や義太夫とのコラボで浄瑠璃の演目モチーフにした作品をつくる企画が予定されています。

いずれの地域も来年度以降を見据えた取り組みが行われています。各地のスケジュールは欄外に記載していますので、近くで行われるダン活の取り組みをぜひ視察していただければと思います。



小学校アウトリーチの様子(Aプログラム・上田市交流文化芸術センター/アーティスト:田畑真希)

●平成30年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」『桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰〜立ち切れ線香の章〜』(作・演出:内藤裕敬)

◎公演会期/会場

9月22日/すばるホール、9月30日/能代市文化会館、10月13日/上田市交流文化芸術センター、10月21日/高知市文化プラザかるぼーと、2019年2月10日/豊岡市民プラザ、2月16日/茅ヶ崎市民文化会館、2月24日/浄るりシアター

◎地域交流プログラム実施日/会場(内容)

8月9日/能代市文化会館(演劇WS)、9月6日・10月12日/犀の角・上田市交流文化芸術センター(落語WS)、9月15日/すばるホール(演劇WS)、10月20日/高知市文化プラザかるぼーと(落語WS)、2019年2月4日:能勢小学校(落語WS(小学校アウトリーチ))、2月9日/豊岡市民プラザ(落語WS)、2月15日/茅ヶ崎市民文化会館(演劇WS)

◎問い合わせ

芸術環境部 梅田・水上

Tel. 03-5573-4076

●平成30年度公共ホール現代ダンス活性化事業 参加団体(主会場/アーティスト/日程)

◎Aプログラム

熊本県長洲町(ながす未来館/鈴木ユキオ/6月19日~22日)、長野県上田市(上田市交流文化芸術センター/田畑真希/6月20日~23日)、山形県酒田市(酒田市民会館希望ホール/田村一行/10月3日~6日)、兵庫県西宮市(西宮市民会館/セレノグラフィカ/10月17日~20日)、愛知県小牧市(小牧市市民会館/東野祥子/10月24日~27日)、愛知県豊橋市(徳の国とよはし芸術劇場/田村一行/11月20日~23日)、東京都国立市(くにたち市民芸術ホール/東野祥子/12月5日~8日)、福岡県宗像市(宗像ユリックス/長井江里奈/12月6日~9日)、愛知県半田市(半田市福祉文化会館/田畑真希/12月7日~10日)、兵庫県豊岡市(豊岡市民プラザ/鈴木ユキオ/2019年1月16日~19日)、沖縄県浦添市(浦添市でこホール/北尾亘/2月14日~17日)

◎Bプログラム

兵庫県神戸市(神戸アートビレッジセンター/長井江里奈/9月22日~24日、11月20日~25日)、徳島県徳島市(徳島県郷土文化会館あわぎんホール/セレノグラフィカ/11月24日~25日、2019年2月26日~3月4日)、静岡県川根本町(川根本町文化会館/中村蓉/2月1日~3日、3月6日~11日)

◎Cプログラム

埼玉県入間市(入間市産業文化センター/北尾亘/12月13日~16日)

◎問い合わせ

芸術環境部 栗林・佐藤

Tel. 03-5573-4055・4075

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 三田・高澤

●2019年1月号情報締切
11月30日(金)

●2019年1月号掲載対象情報
2019年1月～3月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」
掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●札幌市

札幌市芸術文化財団
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75

Tel. 011-591-0090 平井・梅村

<https://artpark.or.jp/>

札幌美術展 五十嵐威暢の世界

日本を代表するデザイナーのひとり・五十嵐威暢のデザイナーとしての原点である、1973年の個展から彫刻家としての現在までの仕事の変貌を、ポスターやプロダクト、彫刻など163点を通して展覧。本展に先駆けて先行公開されたインスタレーション作品や、新作の彫刻作品も展示する。期間中は五十嵐を講師に「あそびながらつくる」ことを楽しむワークショップなどを開催。

[日程]10月6日～11月25日

[会場]札幌芸術の森美術館



五十嵐威暢「彫刻『響』モデル」(1986年/竹尾アーカイヴズ蔵)

●札幌市

北海道立近代美術館
〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目

Tel. 011-644-6993 松山聖央

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kenb>

北の美術家群像

開館以来収集してきた「北海道の美術」のコレクションを中心に、北海道の美術史の中心的役割を担った20名の代表作を展示する。北海道内の多様な美術館の収蔵作品の意義や価値を改めて考える機会とし、コレクションの鑑賞機会を増やそうとする取り組みである、北海道教育庁が推進する事業「ア

トギャラリー北海道」の2018年度開催展覧会のひとつ。

[日程]7月7日～11月11日

[会場]北海道立近代美術館

●岩手県岩手町

岩手町立石神の丘美術館

〒028-4307 岩手郡岩手町五日市10-121-21

Tel. 0195-62-1453 齋藤・石山

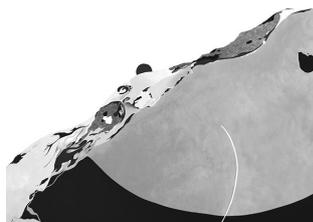
<http://ishigami-iwate.jp/>

【North Wind Project / 北から吹く風2】〈Metamorphose〉 石田貴裕 小野ハナ 鈴木研作

岩手ゆかりの若手作家を取り上げるグループ展。屋外がメインだった「石神の丘アートウォーク」に引き続き企画として、屋内展示場で隔年開催され、今回は2回目となる。本展は「メタモルフォーゼ」(変化、変容)をテーマに、石田貴裕の絵画作品、小野ハナの映像作品、鈴木研作の写真作品を中心に紹介する。

[日程]9月29日～11月4日

[会場]岩手町立石神の丘美術館



小野ハナ「赤と宇宙」(2016年/アクリル、鉛筆、水彩紙)

●岩手県盛岡市

盛岡市文化振興事業団

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通2-9-1 マリオス内

Tel. 019-621-5100 新沼祐子

<http://www.mfca.jp/shiminbunka/>

盛岡市民文化ホール開館20周年記念 スペシャル・ガラ・コンサート

合唱や器楽、舞踊などのさまざまな芸術分野で活動する幅広い世代の市民と仙台フィルハーモニー管弦楽団(指揮:岩村力

の共演で、開館20周年を祝う華やかなステージ。盛岡オリジナルバージョンの日本語歌詞による『フィンランディア』など特別なプログラムを楽しむことができる。

[日程]11月11日

[会場]盛岡市民文化ホール

●宮城県大河原町

えずこホール(仙南芸術文化センター)

〒989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1

Tel. 0224-52-3004 玉淵博之

<http://www.ezuko.com/>

えずこミュージックアカデミー コンサート22nd

住民参加型創造文化施設をコンセプトとするえずこホールを拠点に活動してきた音楽・住民創造グループ(ギター合奏、男声合唱、弦楽合奏、ゴスペル、吹奏楽)が、1年間鍛錬を重ねてきた演奏で、幅広いジャンルから色彩豊かな曲の数々を届ける。グループ単独のコンサートだけでなく、コラボレーションによるロビーコンサートにも注目。

[日程]11月25日

[会場]えずこホール

関東

●栃木県足利市

足利市立美術館

〒326-0814 足利市通2-14-7

Tel. 0284-43-3131 大森哲也

<http://www.watv.ne.jp/~ashi-bi/>

長重之展—渡良瀬川、福猿橋の土手—

美術家・長重之(1935～)は足利市梁田を拠点に活動、約70年に及ぶ創作活動を「地図を描いてきた」と総括している。本展では「渡良瀬川 美術家の誕生」「福猿橋 反絵画の起点」「土手の向こう側 時空の旅」として時代とともに移ろう数々のモダンな作品約90点を展示。長の父・長安右衛門や地元の師、友人

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

の作品も併せて展示し、長の半生を回顧する。

[日程] 9月15日～11月4日

[会場] 足利市立美術館

●さいたま市

うらわ美術館

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-5-1 浦和センチュリーシティ3F

Tel. 048-827-3215 滝口明子

<http://www.city.saitama.jp/urawa-art-museum/index.html>

美術への挑戦 1960's-80's: 秘蔵されていたアート・ブック

「本をめぐるアート」というテーマのもと、個人的かつ国際的なコレクションを形成しているうらわ美術館。本展は、初公開となる作品を中心に、アート・ブックを理解するためのキーワードを追いながら、1960年代から80年代まで出版物に取り組んだアーティストたちの動きを紹介する。

[日程] 11月17日～2019年1月14日

[会場] うらわ美術館

●埼玉県草加市

草加市文化協会

〒340-0013 草加市松江1-1-5

Tel. 048-931-9325 手塚雪香

<https://soka-bunka.jp/>

国際ハープフェスティバル2018 ー草加市

世界有数のハープを主役とする音楽イベント。11月17日・18日に開催するメインコンサートでは、世界的ハープ奏者とヴァイオリンの共演や、フルート、室内オーケストラとの共演など30周年を飾る華やかなプログラムを用意。17日のフェスティバルコンサートは、昨年までの夜公演から昼の開催とし、5歳からの未就学児も入場可能として、家族で参加しやすい内容とした。

[日程] 11月15日～18日

[会場] 草加市文化会館

●千葉県市原市

市原湖畔美術館

〒290-0554 市原市不入75-1

Tel. 0436-98-1525 豊福宏光

<http://lsm-ichihara.jp/>

ジョゼ・デ・ギマランイス展 ～アフリカは魅了する～

ポルトガルの国民的な現代美術家、ジョゼ・デ・ギマランイスがアフリカのプリミティブアートに影響を受け制作した代表的な絵画、彫刻約40点のほか、ポルトガルの公立美術館に収蔵されている作品などが並ぶ国内初の大規模な個展。また、谷川俊太郎の詩にギマランイスが描きおろした絵本『からっぽ』の出版に合わせて、ユーモアあふれる人類創生の物語をアニメーションで公開する。

[日程] 10月20日～2019年1月14日

[会場] 市原湖畔美術館

●東京都練馬区

練馬区文化振興協会

〒176-0001 練馬区練馬1-17-37

Tel. 03-3993-3311 大江真央

<https://www.neribun.or.jp/>

練馬区演奏家協会コンサート 音楽劇『シューマン大好き!』

練馬にゆかりのあるプロの演奏家を中心に設立された練馬区演奏家協会の自主企画。3人の音楽家(ピアノ・渚智佳、ソプラノ・澤江衣里、チェロ・羽川真介)と管理人(クラリネット・十亀正司)が暮らすシェアハウスを舞台に、シューマンの名曲をとおして、彼の知られざる素顔を描き出す音楽劇仕立てのコンサート。

[日程] 11月10日

[会場] 練馬文化センター

●東京都国立市

くにたち市民芸術小ホール

〒186-0003 国立市富士見台

2-48-1

Tel. 042-574-1515 齊藤かおり

<http://www.kuzaidan.com/hall/>

多和田葉子 複数の私Vol.03 「動物たちのパベル」

国立市出身の作家・多和田葉子をフィーチャーしたシリーズ企画第3弾。これまでピアニストとのコラボレーションや朗読などさまざまな試みで企画を実施してきた。今回は多和田の戯曲を市民参加者と共に舞台化し、国立ならではの作品づくりを目指す。書類選考された10歳代から70歳代までの出演者18人が、演出家・川口智子のワークショップを経て舞台に立つ。

[日程] 11月9日

[会場] くにたち市民芸術小ホール

●横浜市

神奈川県民ホール

〒231-0023 横浜市中区山下

町3-1

Tel. 045-633-3686 塩野尚子

<http://www.kanagawa-kenminhall.com/>

上野水香プロデュースバレエ Jewels from MIZUKA II

2回目となる上野水香(東京バレエ団プリンシパル)プロデュースバレエ・ガラ。今回は世界的なスターダンサーのウラジミール・マラーホフとマルセロ・ゴメスをゲストに迎え、国内外で活躍する日本人ダンサーが集結、古典からコンテンポラリーまで珠玉のプログラムを贈る。神奈川県観光親善大使も務める上野による、県民ホールだけの特別公演。

[日程] 11月17日

[会場] 神奈川県民ホール

●横浜市

神奈川近代文学館

〒231-0862 横浜市中区山手

町110

Tel. 045-622-6666 斎藤泰子

<https://www.kanabun.or.jp/>

特別展「寺山修司展 ひとりぼっちのあなたに」

寺山修司の秘書兼マネージャーを務めてきた田中未知が、長年

にわたり収集管理してきた資料の中から300点を中心に展覧会を構成し、現代詩や演劇、映画、歌謡曲などあらゆる表現手段で創作をしてきた寺山の全容を浮き彫りにする。また、あらゆる場所が劇場になりうると考えていた思想を引き継ぎ、展示会場内を演劇的空間ととらえ、寺山の“言葉”を会場内外に掲げる。

[日程] 9月29日～11月25日

[会場] 神奈川近代文学館

北陸・中部

●新潟県妙高市

妙高文化振興事業団

〒944-0046 妙高市上町9-2

Tel. 0255-72-9411 大野雅季

<http://myoko-bunka.jp/>

MYOKO SKOOLーダンス・オブ・アウトサイダーズー越智雄磨セレクションvol.1

気鋭のダンス研究者・越智雄磨と富士山アネットの長谷川寧が、ロマンティックバレエからストリートダンスまで座学とパフォーマンスを通して縦横無尽にダンスの魅力に迫る。前半は、“他者(アウトサイダー)との遭遇”をテーマとする越智と長谷川によるダンス講座と対談。後半は、オーディションを通過した11歳から60歳代までの現地キャスト12名が、富士山アネットの代表作『Attack On Dance』妙高デモ版の上演に挑む。

[日程] 11月18日

[会場] 妙高市文化ホール

●富山県富山市

とやま室内楽フェスティバル実行委員会

〒930-0006 富山市新総曲輪

4-18

Tel. 076-423-7159 有藤直樹

<http://www.chambermusic-toyama.jp/>

とやま室内楽フェスティバル 2018

若手室内楽演奏家を育成し、そ

の成果を富山県の音楽芸術の振興に活かすことを目的に開催している音楽祭。サントリーホール館長の館長で、アカデミー・ディレクターの堤剛を筆頭に、原田幸一郎や池田菊衛、磯村和英、毛利伯郎、練木繁夫、花田和加子ら日本を代表する演奏家が若い音楽家たちを指導し、集中ワークショップを受けた受講生によるコンサートなどを開催する。

[日程] 11月7日～16日

[会場] 富山県内各所

●富山県射水市

射水市新湊博物館

〒934-0049 射水市鏡宮299

Tel. 0766-83-0800 野積正吉

<http://www.city.imizu.toyama.jp/museum/>

射水市新湊博物館開館20年記念 没後50年 文人陶芸家 石黒宗麿展

開館20周年および射水市ゆかりの陶芸家・石黒宗麿(1893～1968)の没後50年を記念して開催される企画展。中国・宋の時代のやきものに魅せられ、木葉天目など優品を数多く制作した石黒は、1955年に全国初の人間国宝の認定を受けたひとり。今回は新湊博物館のみならず、東京国立近代美術館や愛知県陶磁美術館などが所蔵する名品70点余を展示。

[日程] 9月14日～11月25日

[会場] 射水市新湊博物館

●長野県飯田市

飯田文化協会

〒395-0051 飯田市高羽町5-5-1(飯田文化会館内)

Tel. 0265-23-3552 中島弘貴

<https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkakaikan/inadani28.html>

第32回伊那谷文化芸術祭

飯田・下伊那地域で活動しているアマチュア舞台芸術家が一堂に会し、日頃の練習成果を披露

し、団体相互の連携を図るとともに、市民に舞台芸術に親しむ機会を提供し、潤いのある心豊かな生活を送るための一助となることを願い開催されている。今回は、合唱や吹奏楽、ダンス、演劇など多彩なジャンルから72団体・1,400人余が出演。

[日程] 11月4日、11日、14日、25日

[会場] 飯田文化会館ホール、飯田人形劇場

●長野県佐久市

佐久市文化事業団

〒384-0303 佐久市下小田町

124-1

Tel. 0267-82-3962 村上祥太

<http://kokoro-saku.com/>

こころのミュージカル2018

「心の中の光となって～人間物語 丸岡秀子～」

2009年に始まった「こころのミュージカル」は、大型の市民参加劇として10周年を迎える。今回はこれを記念して、南佐久郡白田町(現在の佐久市)に生まれ、主に女性の地位向上に尽力した評論家の丸岡秀子の半生を上演。4歳から60歳代までの約130人が出演する。

[日程] 11月11日

[会場] 佐久市コスモホール

●長野県中野市

信州なかの音楽祭実行委員会事務局

〒383-8614 中野市三好町1-3-19

Tel. 0269-22-2111(内線394) 山田直美

<http://www.nakanomf.jp/>

信州なかの音楽祭2018

今年で3回目を迎える音楽祭。「市民参加型(参加して楽しむ・感動を共有する)」「若手育成」「一流の音楽の鑑賞」をコンセプトに、作曲家の岩河智子による合唱ワークショップをはじめ、国立音楽大学学長の武田忠善の吹奏楽公開クリニック&ミニコン

サート、バンドコンテスト、ミュージッククラフトフェアなど、さまざまなプログラムが実施される。

[日程] 10月14日～11月4日

[会場] 中野市役所、中野市市民会館、豊田文化センター、中野陣屋・県庁記念館ほか

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1314 鳥羽都子

<http://www.kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

アートまるケット2018

Nadegata Instant Party

養老公園プロジェクト

「パーキング・プロムナード」

岐阜の方言で“まみれる”を意味する「まるけ」を「マーケット」「マルシェ」に掛け、アートで人々が集い交流する場をつくる企画。これまで美術館庭園を会場としてきたが、今回は美術館を飛び出し、荒川修作とマドリン・ギンズが設計した「養老天命反転地」がある養老公園で“パーキング・プロムナード”をテーマにNadegata Instant Partyが体験型野外アート作品を発表する。

[日程] 10月13日～11月25日

[会場] 養老公園



《パーキング・プロムナード イメージスケッチ》
2018, Nadegata Instant Party

●静岡市

静岡大学 地域創造学環

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel. 054-237-9540 白井嘉尚

<http://megururi.net/>

めぐりアート静岡2018

今を生きるアートを紹介する展覧会として静岡大学を中心に連携、静岡から芸術を発信する場の創出を目指して、市内4カ所で開催。会場を巡りながら、海外を含む8名の作家の多彩な表現に出会うことで、見慣れたまちが違って見える。アーティストの考えにふれ、自らの学びを刺激するような機会が得られるワークショップなど、さまざまなイベントも開催される。

[日程] 10月23日～11月11日(静岡市美術館は11月25日まで)

[会場] 静岡県立美術館、静岡市美術館、中勘助文学記念館ほか

●静岡市

ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町

4-1 アーバンネット静岡ビル4F

(静岡市文化振興財団内)

Tel. 054-255-4746 長谷川皓大

<https://www.streetfestival-shizuoka.com/>

第19回ストリートフェスティバル・イン・シズオカ

市民がアートや音楽などの芸術作品にふれる機会を増やすため、生活の舞台であるまちなかで芸術作品やアーティストと出合い、興味をもってもらうイベント。人間もアートも、常に未完成であり、だからこそ進化し続けてほしいという思いから、最終回となる19回目の今年のテーマを「未完成」とし、多くの作品・音楽、そして人が集まり、交流を図る。

[日程] 11月23日、24日

[会場] 静岡市葵区 青葉シンボルロード

●静岡県掛川市

掛川市生涯学習振興公社

〒437-1421 掛川市大坂7373

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 0537-72-1234 宇野芽久美
<http://k-kousya.or.jp/sione/>

シオーネなみなみコンサート vol.15

今年で15回目を数える地域の音楽文化・芸術愛好家と共に贈る市民手づくりのコンサート。パーカッションパフォーマンス集団「T.J.P.P.A.L.」をゲストに迎え、掛川で結成されたゴスペルサークルやこの催しのためにメンバーが組まれた掛川市近隣の小学生たちによるジャズコーラスのほか、若手演奏家などによる個性あふれる演奏を届ける。

[日程] 11月4日

[会場] 掛川市文化会館シオーネ

●名古屋市長

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

〒455-0037 名古屋市港区名港1-19-18 3F

Tel. 052-652-2511 吉田有里
<http://assemblebridge.nagoya/>

アッセンブリッジ・ナゴヤ2018

2016年よりスタートした名古屋の港まちを舞台にした音楽と現代美術のフェスティバル。今回は「音楽」「アート」に加え、分野を横断する「サウンドブリッジ」の3つのプログラムで構成。コンサートのみならず、アーティストの滞在型プロジェクトや2年間にわたるまちの変化を記録し思考するプロジェクトなど、多彩なパフォーマンスでまちと人が出会う場をつくる。

[日程] 10月6日～12月2日

[会場] 名古屋港 築地口エリア一帯



昨年の様子(美術家・富井大裕の作品展示/会場: Botão Gallery)

●愛知県新城市

新城市教育委員会生涯共育課
〒441-1392 新城市字東入舟115
Tel. 0536-23-7639 森本陽子
<https://www.shinshiro-bunka.jp/event/5169/>

第31回 新城歌舞伎

市内各所で受け継がれてきた村歌舞伎の保存・継承を目的に開催し、今年で31回目を迎える定期公演。新城は伝統芸能の宝庫で「日本伝統芸能の十字路口」ともいわれ、特に地芝居が盛んな地域。この公演では江戸時代から続く村歌舞伎が一堂に会し、子どもの参加や創作歌舞伎上演など、毎回伝承のための工夫と練習を重ねた公演が行われる。

[日程] 11月18日

[会場] 新城文化会館

●三重県津市

三重県文化会館
〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 小林由梨佳
<https://m-pad.tumblr.com/>

M-PAD2018 おいしくてあたらしい料理と演劇のたのしみかた

NPO法人パフォーミングアーツネットワークみえと協働し、今年で8年目を迎え、晩秋の三重の風物詩ともなっているプログラム。県内で評判の高い飲食店での料理と、全国から選りすぐった俳優たちによる文学・古典作品のリーディング公演を同時に楽しむことができる。また、今年はいくつかのM-PADでも名演と呼ばれた作品の再演や、三重県立美術館との企画公演も行う。

[日程] 11月14日～24日

[会場] 三重県内飲食店ほか

●滋賀県栗東市

糸賀一雄記念賞音楽祭実行委員会

〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦4837-2(社会福祉法人グロー内)

Tel. 0748-46-8100 藤原・山田・高山
<http://stage.art-brut.jp/>

糸賀一雄記念賞第十七回音楽祭「湖の詩人」

障害の有無に関わらず滋賀県内で舞台表現を行っている6団体と、栗東芸術文化会館さきらを拠点に活動するさきらジュニアオーケストラ、国内外で活躍するゲストミュージシャンが集結し、音楽やダンスパフォーマンスを行う。手話通訳をはじめ、視覚情報による舞台演出、体感音響システム等を導入し、視覚・聴覚・触覚などさまざまな方法で音楽やダンスを鑑賞できる。

[日程] 11月4日

[会場] 栗東芸術文化会館さきら

●滋賀県守山市

守山市文化体育振興事業団
〒524-0051 守山市三宅町125
Tel. 077-583-2532 西谷仁志
<http://moriyamabuntai.com/wp/>

ルシオールAKF秋色2018

子どもたちにさまざまな文化・芸術体験を提供するイベント。乳幼児から楽しめるメインイベント「オーケストラは楽しい!ルシオールびっくり音楽会」をはじめ、ホール全館で音楽やダンス、人形劇など多彩なプログラムが行われる。毎年人気のワークショップや茶道・華道・書道・料理などの体験教室などもあり、芸術の秋を家族で満喫できる。

[日程] 11月25日

[会場] 守山市民ホール

中国・四国

●岡山市

岡山県天神山文化プラザ
〒700-0814 岡山市北区天神町8-54

Tel. 086-226-5005 福田淳子

<http://www.tenplaza.info/>

アートの今・岡山2018

「Call & Response: 呼応」

岡山の現代美術の“今”を紹介する企画展。13回目となる今回は、作家とその身近な応援者であるサラリーマン・コレクターとの関係に注目。東京と岡山から計10組のコレクターと作家のペアが登場し、コレクターの呼びかけに応じる表現としてオーダー作品あるいは収蔵作品を軸に展示を構成する。両者の掛け合いに加え東西の地域を対比することで、現代の“アート生態系”を浮き上がらせる。

[日程] 11月7日～18日

[会場] 岡山県天神山文化プラザ

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館
〒770-8070 徳島市八万町向寺山(文化の森総合公園内)

Tel. 088-668-1088 森芳功
<http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/>

日下八光日本画展—自然美の探求と知られざる画業

徳島県阿南市出身の日本画家・日下八光の画業を紹介する初の回顧展。戦前の帝展などで発表した大作など自然美を追求した日本画や装飾古墳の模写、戦前の日本や朝鮮で描いた緻密で美しいスケッチなど3つの構成で名品を披露。日本画技法が学べるワークショップや漢陽大学(韓国)の講師を含む4名による日下を知る講座も開催。

[日程] 9月15日～11月4日

[会場] 徳島県立近代美術館



日下八光《水原城》(1929年)

●徳島県徳島市

徳島県県民文化課

〒770-8570 徳島市万代町1-1

Tel. 088-621-2249 大崎理英

http://tokushima-kenbunsai.jp

ほう楽★ガールズconcert II

県内の若手邦楽演奏者で結成されたグループ「ほう楽★ガールズ徳島」によるコンサート。メンバーはカラフルな着物や派手な髪型で箏などを演奏し、若い世代に邦楽への興味をもってもらう。2回目となる今回は、県邦楽協会推薦のジュニアメンバー（中高生）などが新たに加わるとともに、地元のシンガーソングライターをゲストに迎えて書き下ろしのコラボ曲も披露する。

[日程] 10月28日

[会場] あわぎんホール



昨年のコンサート

●愛媛県久万高原町

町立久万美術館

〒791-1205 上浮穴郡久万高原町菅生2-1442-7

Tel. 0892-21-2881 中島小巻

http://www.kumakogen.jp/site/muse/

久万美いま 30th

美術館創設のきっかけとなった井部栄治コレクションと「新たな価値の創造」をモットーに集めた収蔵品を2部構成で紹介する。第1部では、関連作品も借用してきて対比をさせるなど、井部コレクションの中でも小品やスケッチに焦点を当て、第2部はコレクションのみの展示で久万美術館の30年の足跡を振り返る。井部家ゆかりのコンサートも開催。

[日程] 第1部: 9月8日~10月31

日、第2部: 11月10日~12月16日

[会場] 町立久万美術館

九州・沖縄

●北九州市

北九州芸術劇場

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11(リバーウォーク北九州内)

Tel. 093-562-2655 加賀田浩二

http://q-geki.jp/

北九州芸術劇場プロデュース/九州男児劇『せなに泣く』

北九州芸術劇場の新たなプロデュース公演。熊本県出身の劇作家・演出家の田上豊が「九州男児」をモチーフに新作を書き下ろし、九州出身の8名の俳優たちとつくり上げる笑いあり涙ありの群像劇。幼少期を施設で過ごし、親の背中を見ずに育った兄弟とその仲間たちにまつわる痛みと絆の物語を描く。現代の九州男児たちの姿を通して、「家族・仲間・自分自身」を問いかける。

[日程] 11月29日~12月2日

[会場] 北九州芸術劇場

●福岡県久留米市

久留米文化振興会

〒839-0862 久留米市野中町1015

Tel. 0942-33-2271 上野・長谷川

http://www.ishibashi-bunka.jp/

石橋文化センターアートフェスティバル

広大な敷地内に、美術館や音楽ホール、図書館、庭園を有する複合施設である石橋文化センターがアートに包まれる。2016年の久留米市美術館開館を機にスタートし、今回で3回目を迎える。広大な庭園の紅葉やバラの見頃に併せて、地元のアーティストと小学生がペリカンをモチーフに共同制作した作品の展示や、近隣大学との連携によるプログラム、小学生を対象とし

たワークショップなどを実施。

[日程] 11月3日~12月2日

[会場] 石橋文化センター

●長崎県五島市

長崎県文化振興課

〒850-8570 長崎市尾上町3-1

Tel. 095-895-2764 森樹

http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/living/event_detail.php?content_id=4967

五島ウインドオーケストラ演奏会

長崎県と東京藝術大学による「音楽セミナー in 五島」から誕生した吹奏楽団の演奏会。東京藝術大学の講師が中高生らを対象にセミナーを3回にわたって行い、その成果を合同演奏として披露する。今年は上五島において、島外からの受講生も募集してミュージックキャンプを実施することで、五島列島全体の魅力向上を図り、音楽を通じた地域活性化に取り組む。

[日程] 11月11日

[会場] 福江文化会館

●鹿児島県鹿児島市

鹿児島市立美術館

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36

Tel. 099-224-3400 林裕一郎

http://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/

明治維新150周年 日本洋画の夜明け—山岡コレクションを中心に

激動の時代であった幕末から維新、明治にかけて生きた画家たちに焦点を当て、彼らによって描かれた人物や風景、風俗などの作品や、時代に翻弄されながらもたくましく生き抜いた人々の生き方を示す資料など113点を展示し、近代化への道を歩んだ日本の姿を紹介する。会期中は、講演会のほかフィールドワーク、ギャラリートークなどの関連イベントも開催される。

[日程] 9月28日~11月4日

[会場] 鹿児島市立美術館



五姓田義松《人形の着物》(笠間日動美術館(山岡コレクション))

●鹿児島県霧島市

霧島国際音楽ホール みやまコンセール

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 武田・宮原

http://miyama-conseru.or.jp/

霧島芸術の森を巡る旅~秋はみやまでJAZZ三昧☆(バスツアー&コンサート)

秋の霧島とジャズコンサートがまとめて楽しめるバスツアー付コンサート。バスツアーではアフタヌーンティーを味わうコースなどを用意。旅のしめくくりのコンサートでは、鹿児島ジャズフェスティバルを立ち上げたピアニスト松本圭使のほか、ギラ・ジルカ、古木佳祐、吉良創太が出演。ジャズ・カルテットのコンサートだけでも楽しむことができる。

[日程] 11月25日

[会場] 霧島国際音楽ホール

クリスマス・新春企画情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 11月1日(木)

▼— 今月の情報 (アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●札幌市

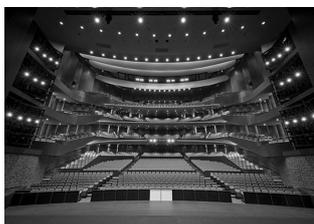
札幌市民交流プラザ

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目

Tel. 011-271-1000

<https://www.sapporo-community-plaza.jp/>

◎2018年10月7日オープン



オフィスや放送局などの民間施設を含む施設「さっぽろ創世スクエア」の一部としてオープン。大規模なオペラやバレエなどさまざまな公演が可能な札幌文化芸術劇場「hitaru」、市民やアーティストが発表や交流の場として利用できる札幌文化芸術交流センター「SCARTS」、仕事や暮らしに役立つ図書を集め、カフェを併設する「札幌市図書・

情報館」の3つから成る複合施設。3つの機能が連携して相乗効果を生むことにより、多くの人が交流する場となることを目指している。

こけら落とし公演(オペラ『アイダ』)で華やかに開館を祝うとともに、開館後1年間のオープニングシリーズ期間は、芸術文化団体を対象とした公募企画事業など多様な事業を実施するなど、市内芸術文化活動の振興を図る。

[オープニング事業] グランドオペラ共同制作 ヴェルディ作曲 オペラ『アイダ』

[施設概要] 札幌文化芸術劇場 hitaru(2,302席)、クリエイティブスタジオ(175席)、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書・情報館

[設置者] 札幌市

[管理・運営者] 公益財団法人札幌市芸術文化財団

[設計者] 日建設計・北海道日建設計 共同企業体

●北海道東川町

東川町複合交流施設 せんとびゅあⅡ

〒071-1426 上川郡東川町北町1-1-2

Tel. 0166-82-4245

◎2018年7月7日オープン



東川町の「写真文化」「家具デザイン文化」「大雪山文化」を通じた文化活動を中心に、国際交流や住民の自主的活動などの活性化を目的として、2016年に旧東川小学校の校舎を改修した「せんとびゅあⅠ(東川町文化芸術交流センター)」の旧校庭部分に新設された多目的施設。

施設内部は、旧文化交流館に入っていた図書機能を拡充し施設中央に配置。その周囲を大雪山に関する貴重な資料を収集公開する大雪山アーカイブス、町の写真文化を紹介する東川写真コレクション、家具に関連するデザイン文化を発信する家具デザインアーカイブスが囲み、各展示が同時に展開される大空間が広がる。

町ゆかりの木彫刻や木工クラフトなどの美術品のほか、地場産の「旭川家具」を取り入れた施設は、町の多様な文化芸術活動の発信拠点の役割をもつとともに、町の文化と自由にふれ、集まった人々が交流できる「まちの宝物ひろば」を目指す。

[オープニング事業] TAISETSU ジャズフェスティバル東川

[施設概要] ほんの森、セミナー室、体験室、多目的室、ショップほか

[設置・管理・運営者] 東川町

[設計者] 小篠隆生・(株)ドーコン

Topics 茅ヶ崎市の文化拠点がリニューアルオープン

施設の老朽化や耐震性の不足等により大規模改修が行われた茅ヶ崎市民文化会館。改修に際しては利用団体である市民の声を聞きながら、全面的なバリアフリー化や小規模イベントも開催可能な練習室1(兼ミニホール)の新設、稼働式パネルを導入し展示室の分割利用が可能となるなど細やかな視点で改修が行われ、またホールの音響性能も向上し、より使いやすい施設に生まれ変わった。

ホールには親子連れでも気兼ねなく鑑賞ができるようにと多目的室を設置。また館内には花屋カフェが入居。茅ヶ崎の農産物やエディブルフラワーを取り入れるなど、見た目もおしゃれで写真映えるメニューで、これまで来館したことがない層へのリーチにも力を入れている。

開館までの期間は地元アーティストと協働し30年間親しまれてきた建物の廃材を活用したグッズ制作等の事業も展開。開館後の1週間は「リニューアルオープニング・ウィーク」と銘打ち、こけら落としの神奈川フィルハーモニー管弦楽団と茅ヶ崎ゆ

かりの指揮者・上野正博による無料コンサートをはじめ、バックステージツアーや演劇公演などさまざまなプログラムを実施。30年以上茅ヶ崎の文化芸術活動を支えてきた会館はリニューアルを経て、より一層快適に、今後も多様な市民に愛され、魅力あふれる施設を目指している。

●茅ヶ崎市民文化会館

[開館] 1980年10月(2018年10月1日リニューアルオープン)

[所在地] 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1

Tel. 0467-85-1123 <http://www.chigasaki-hall.jp/>



©シンフォワーク

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

神戸市

神戸アートビレッジセンター 「KAVCアートジャック 2018」



上: KAVC外観。アートジャック入場を待つ長蛇の列/中: 根本しゅん平のカメラ付きスクリーン装置で遊ぶ子ども/下: 大所帯非楽器アンサンブルPOLY!

● KAVCアートジャック2018

【会期】2018年9月15日、16日

【主催】神戸アートビレッジセンター(KAVC)

【総合ディレクター】ウォーリー木下

【出展アーティスト】明楽和記、ackey & ayachu、アンサンブル・ゾネ、伊阪柊・前田耕平・ミキ仙太郎・宮坂直樹、いるかHotel新館、いるかPension、うんなま、織り手のさき、幻灯劇場、コトリ会議、The Palemen(楡皮一彦+ORYU)、sunday、ゼロコ、根本しゅん平、破墨プロジェクト、POLY!、MASAI HIROKO、maz、みつつのはなわ

*ウォーリー木下

劇作家・演出家。1971年生まれ。93年、神戸大学在学中に劇団☆世界一団(現・sunday)を結成。ノンバーバル・パフォーマンス・ユニット「THE ORIGINAL TEMPO」のプロデューサー・演出家。2015年から「ハイキュー!!」を演出。演劇、コンテンツ・リーダーダンス、落語、狂言などあらゆるジャンルのプレイヤーによるショートプレイを集めた大阪ショートプレイフェスティバル、PLAYPARK、多摩1キロフェス、静岡ストリートシアターフェス・ストレンジシアターなどのプロデュースやプログラム・ディレクターも務める。メディアアートとパフォーマンスが融合する舞台に手腕。

阪神淡路大震災の翌年、1996年に開館し、20年以上にわたって活動してきた神戸アートビレッジセンター(以下、KAVC)が新しい局面を迎えている。KAVCは、今は寂れてしまった大歓楽街・新開地に位置し、当時としては珍しいマンションとの複合で、ホール・ギャラリー・映像シアターのほか、複数のリハーサル室やスタジオ、アトリエを備えた施設だ。当初から若手芸術家のチャレンジと地元の新開地活性化を目的とし、演劇・ダンス、美術、映像、地域活動を展開してきた。

大阪ガスが設置した扇町ミュージアムスクエア(2003年閉館)を運営していたプラネットワーク(現・大阪ガスビジネスクリエイティブ)が神戸市の委託で事業を行ってきたが(05年度より指定管理者制に移行)、17年度から神戸市民文化振興財団に交替。新たに神戸市長田区を拠点に活動するNPO法人DANCE BOXのエグゼクティブ・ディレクターで、地域連携にも定評のある大谷煥が館長、「僕を育ててくれたのはKAVC」と公言する演出家のウォーリー木下(*)が舞台芸術プログラム・ディレクターに就任。その新たなチャレンジとして、9月15日、16日に全館を使った「KAVCアートジャック2018」が行われた。

近年、近隣に新しいマンションが何棟も建設され、街の雰囲気も大きく変容。取材当日には、開場を待ちかねた老若男女の長蛇の列ができていた。

KAVCアートジャックは、全館を若手アーティストに無料で開放する試みで、公募により選ばれたノンジャンルのアーティスト18組がお昼の12時から夜の8時まで館内のいたる所で同時多発的に展示やパフォーマンスを展開(出入り自由で入場料1,000円。整理券が必要なものもある)。決して大きくない施設の中を、小さな子どもからアート好きの若者、近所の住民までがスケジュール表を片手に地下から4階まで、探検するように歩き回っていた。

非常階段の暗闇とKAVC前の道路で不思議なショートショートを披露した関西の新進劇団・

コトリ会議、スモークで満たされたビニールハウスにレーザー光線を照射しながらパフォーマンスを行ったThe Palemen、空き缶やおもちゃなど日用品を用いて不思議なハーモニーを奏でた大所帯非楽器アンサンブルPOLY!、2枚の向かい合ったカメラ付きスクリーンの間でパフォーマンスを行い、リアルタイムに撮影したその映像をディレイさせながら再生してパフォーマンスと絡ませる不思議なダンスを披露した根本しゅん平など。ちなみにヨーロッパが拠点の根本は、「(ディレイさせる)プログラムが僕の振り付け」と言い、インターネットで情報を入手して日本への足がかりとして参加したと話す。

今回の仕掛け人である木下は、「若い頃、KAVCでいろいろな人と出会ったのが今の僕のルーツになっていて、“足を向けて寝られない劇場”。異ジャンルの表現を目の当たりにして成長できたし、自分でもそういうフェスを企画してきた。アートジャックは、今の若いアーティストと出会い、彼らの生の声を聞きたくて企画した。今回やってみて、KAVCがこの20年でアート系の人たちに定着しているのがわかってきたし、新しいアーティストにも出会えた。恩返しとして、ここを若い人たちが見たこともない表現に出会う場にしたい。新開地というまちのノイズや人のざわめきも取り込んだ、KAVCならではのものが生まれれば面白い」と意欲を語る。

大谷館長は、「KAVCの柱が『若手芸術家の育成』と『地域活性』であることは同じだが、あらゆるジャンルがボーダレスになっている今、これまでの手法を更新して作品を創造するアートセンターになりたい。今まで以上にあらゆる人が集える広場を目指したい」という。すでに美術事業では、30~40歳代の中堅アーティストを対象にした新しい公募プログラムが開始し、ポールダンサーと美術家のユニットによる新作にも取り組んでいる。一方で、10年続く高校生のための演劇スクールなどは育成事業として継続する。

新生KAVCが、改めて表現者と街を見つめ、どのように働きかけていくのか。期待をもって見守りたい。(アートジャーナリスト・山下里加)